



明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

Twitter



YouTube

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail : gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 285

2024

9.10

明石で広がる対話

8月21日（水）に市民会館中ホールで、学校関係者、地域関係者、保護者、行政関係者等が集まり、「明石のコミュニティ・スクールフォーラム2024」が開催されたことは284号で紹介させていただきました。フォーラムでも明石コミュニティ創造協会の木上さんのファシリテートにより「地域と子どもがつながることで育つこと、育みたいこと」をテーマに対話をおこないました。1学期は林小学校や鳥羽小学校では学校・地域・保護者の三者での対話や子どもと地域・保護者の対話が開催されました。そして、この夏には昨年引き続き対話をおこなった校区だけでなく、また、新たに対話をスタートする校区も出てきました。

【この夏休に開催された対話】

◎今年も継続して開催された対話

朝霧小校区：「アサトーク」



松が丘小校区：松が丘いどばた会議

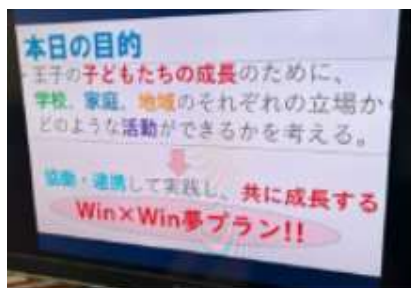


二見北小校区：北っ子ぐんぐん会議（二見北小拡大運営会議改め）



◎今年新にはじまった対話

王子小校区：「SHINE MEETING」（シャインミーティング）



江井島校区：江井島中学校区学校運営協議会・学校園所合同研修会



各校区、校区の実態に応じた工夫がされています。共通しているのは、コミュニティ・スクールをつくるための対話ではなく、「未来を担う人を育てる」ための対話であり、対話することで「未来を担う人を育てる」ためのこれからの「学びのあり方の更新」が始まっているのではと感じます。そんな対話を見ていると、対話が「社会に開かれた教育課程」への一歩なんだと感じます。これからの教育課程は学校の中だけの学びだけでなく、地域・家庭での学びもつなげて「人が育つ総合的な学びの仕組をデザイン」していくものとして考えていく必要があるのではと考えています。

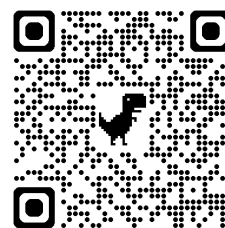
「“学ぶ”ってどういうこと？」こんなテーマで対話をしてみては？

光村図書が「“学びをまなぶ”web サイト」という子ども向けのサイトを公開しています。人生100年時代、生涯学び続ける時代を生きる子どもたちにとって、「学びの活動」にどんな意味があって、活動を通してどんな力がついて、どのように思考が広がっていくのかを知ってほしいという考えから生まれたサイトだそうです。（「学びをまなぶ」Web サイト公開のお知らせ参照）

このサイトを見ながら、子どもたちと一緒に「学ぶことの意味」を考えたことはなかったし、そういったことが必要だと考えたことがなかったと感じました。こうした「学ぶことの意味」も繰り返し考えていくことで、生涯学んでいく意味が子どもたちに浸み込み、学びに向かう姿勢が身に付いていくのではと感じました。

こうしたサイトを見ながら、「“学ぶ”ってどういうこと？」を一度対話してみるのはいかがでしょうか。子どもと先生で、先生同士で、そして学校・保護者・地域の三者で対話をしていくことで、これからの時代に向けての「“学び”の更新」がすすんでいくのではと考えます。一度覗いてみられるのはいかがでしょうか？

<https://mitsumura-edulab.org/>



（文責：北本）